

日 時：平成 29 年 7 月 27 日（木）18 時 30 分 ～19 時 45 分

場 所：尾崎多目的研修集会施設

対象地区：尾崎

参加人数：17 名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○道路の拡幅について</p> <p>（市民から）</p> <p>小田桐住建前の県道について、ようやく測量が入ったようであり町会でも喜んでいる。もしできれば、歩道も付けてもらえないか。平賀西中学区では、歩道が多く整備されている。平賀東中学区の方でも、歩道整備をお願いしたい。また、併せて同じ路線で、高速道路高架付近に蓋の付いていない U 字溝があり、幅が広いうえに深い。除雪時にドーザが脱輪するなどし危険なことから、蓋を設置できないか。</p> <p>前回のまちづくり懇談会でも話をしたが、当該路線は通学路であり右側を小学生、左側を中学生、そして自動車と交通量が多い路線である。事故が起きる前に、早めの実施をお願いします。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 県道に関しては、平川市から 2 2カ所の要望を出している。今、歩道も設置してほしいとのことで要望があったが、県に話はしてみるがどこまでできるかはわからない。</li><li>・ 向陽町会を通る県道、また平賀東中学校へ向かう町居の県道と拡幅の計画があるが、地権者の了承が得られないことなどの理由により、なかなか進まない。</li><li>・ 交通安全に関する事業で道路拡幅を行う予定であるが、どのような計画で整備することになっているのかを調べてみる。</li><li>・ 町会要望で要望いただいた箇所については、尾崎町会内の袋小路の解消は実施困難である。集会所から生産組合までの道路拡幅については、生産組合裏のガードレールを寄せることで道路は多少広がると考えられることから、この手法についても検討していきたい。</li></ul>
<p>○観光予算について</p> <p>（市民から）</p> <p>新聞報道で、市の観光予算がこれまでの数倍に上るとされていた。その内容を教えてほしい。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 地域の観光イベント等の予算規模は、さほど変化はない。</li><li>・ 今年度より観光協会が独立した。独立したことに伴う、事務費を予算計上していること</li></ul>

が理由の一つとしてある。

- ・また、宿泊客を増やす施策として、昨年12月に台中市、青森県、平川市の三者で友好交流協定を締結した。今年2月には、台中市で開催されたランタンフェスティバルに平川女子囃子組と共に参加し、平川市をPRしてきた。来年のランタンフェスティバルでは、10トントラックのコンテナに納められる可搬式ねぶたを台中市へ持っていき、平川市をPRする予定である。
- ・世界一の扇ねぶたについても、製作から約20年が経過し、老朽化していることから新たな世界一の扇ねぶたを製作することとしている。製作費には、JRからの補助金、また企業版ふるさと納税で寄附をいただく予定である。
- ・以上のような理由により、今年の観光に関する予算が多くなっているものである。

#### ○県道脇のさわらの伐採について

(市民から)

県道吹上金屋線の道路拡幅事業が、順調に進んでいるようであるが、町居地区内のさわらだけでも先に切ってもらえないか。冬場はさわらから雪が落ち、道路幅が狭くなることから、交通の妨げとなっている。

根元から伐採できない場合は、道路に出ている枝だけでもいいので、剪定をしてほしい。

(市から)

- ・県道吹上金屋線の拡幅事業については、今年度は平賀東中学校側から事業を進める予定と聞いている。
- ・さわらの伐採については、昨年にも要望しているがなかなか実施できないようである。葉の部分を剪定すれば枝部分が剥き出しになり、車両を傷つける恐れもある。
- ・拡幅工事に伴う用地買収が進まない場合でも、さわらの木の伐採については先に対応してほしいとのことで、中南地域県民局へ要望していく。

#### ○空家への対応について

(市民から)

近所に倒壊した空家があり、その残骸は現在も片付けられていない。夏場は臭いがきつく、また蜂も大量に発生している。乾燥する時期には、火災も心配される。蜂が発生した際に、市役所へ連絡したところ、市民課で対応してくれたが、抜本的な解決方法はないものか。

(市から)

- ・今、話に出た空家は、老朽化レベルが6と、空家の中でも状態は悪い方である。
- ・平川市空家等対策審議会では対策計画を策定しているが、今後どのように対応していけばよいかは、非常に苦慮しているところである。空家の対応については、計画に基づき進めて行くこととなるが、市内に家屋の空家が465件ある中で、行政としてどのような

対応ができるかは難しいところである。

- ・空家の中には、痛んでおらずリフォームすることで再利用できる空家、また老朽化が進み再利用できない空家がある。空家の処理は、原則、所有者が対応しなければならないが、所有者が対応しない場合、市民からは行政で何とかしてほしいと要望が出てくる。審議会では、これらの空家について行政で対応するようにとのことであったが、解体・処分するとなると、皆さんの税金を投入することとなる。1件を処理するのに数百万円は必要である。周囲の住民に迷惑がかかっていることから、何とかしなければならないと思うが、市内全ての空家について、行政で対応することは困難である。
- ・行政代執行により空家を撤去した場合、その経費を所有者に対し請求することとなる。所有者が支払わない場合には、これもまた市民の皆さんの税金で対応することとなる。
- ・強風により屋根のトタンが飛散する恐れのある空家については、消防の協力を得ながら、飛散防止対策を講じている。

#### ○高齢者福祉について

(市民から)

平賀町が町村合併し、平川市が誕生した。平川市となり、老人に対する待遇が合併前と違おうと市民から聞かれる。

合併前までであった、100歳での100万円の祝い金を贈る制度が無くなった。また、老人福祉大会では、喜寿、米寿が表彰対象であったが、現在は卒寿でないと対象でない。統計を見ると、年間400人前後の人が亡くなっているが、85～89歳で亡くなる人が一番多いようである。

また、長寿福祉大会で以前は、朝から催し物を行い昼食が出ていた。今は、昼からの催し物で昼食が出ない。昼食が出なくなり参加者数も200名前後しか集まっていない。昼食が提供され、参加者が多く集まることで親睦を深めることができた。

これらのことについて、合併前の対応に戻すことはできないか。

(市から)

- ・現在は、昔よりも長生きする人が増えている。その中で町村合併を迎え、合併時にどのような協議がなされてきたか調べてみる。社会福祉協議会にも確認を取りながら、経緯を調べてみる。
- ・青森県は全国に比べ平均寿命が短い中で、それでも100歳以上の人が増えている。平川市においては、年間約400人の方が亡くなり、約200人が出生している。市では、子どもを多く産んでもらい、若い世代を増やそうとのことで保育料第2子無料化や医療費無料化の施策を展開している。全国的にみても、同じような流れである。
- ・長寿福祉大会に弁当を出すことについては、金婚式の出席者へは午前からの出席となることから提供しているが、一般の参加者の方へ弁当を提供することについては、関係者と協議が必要である。

○石碑の移動について

(市民から)

白岩へ行くバイパスが通り、元の幹線農道脇にあった石碑を寄せた。しかし、現在、草の中に埋もれている状況である。この石碑をまた移動してもらえないか。

(市から)

- ・石碑を行政で動かすことはできない。

○一時停止表示の改善について

(市民から)

萬松寺近くの交差点の一時停止表示が消えかかっており、非常に危険である。一時停止せずに交差点に進入する自動車もあり、トラブルも発生している。一時停止、止まれの表示をもう一度、書いてほしい。

(市から)

- ・現場を確認したい。

○道路からの水の溢れについて

(市民から)

白岩へ行くバイパスの途中で、道路舗装の下から水が溢れている箇所がある。その水が畑の側溝の下を流れ、くぼみができ危険なので改善してほしい。以前にも市役所をお願いをし、盛り土にて対応してもらったが、また陥没している状況である。

(市から)

- ・後ほど、場所をお知らせいただきたい。担当課に現場を確認させる。